

## (仮称) 移動等円滑化促進方針及びバリアフリー基本構想策定に係る基礎調査結果

## 1 バリアフリー化の進捗状況

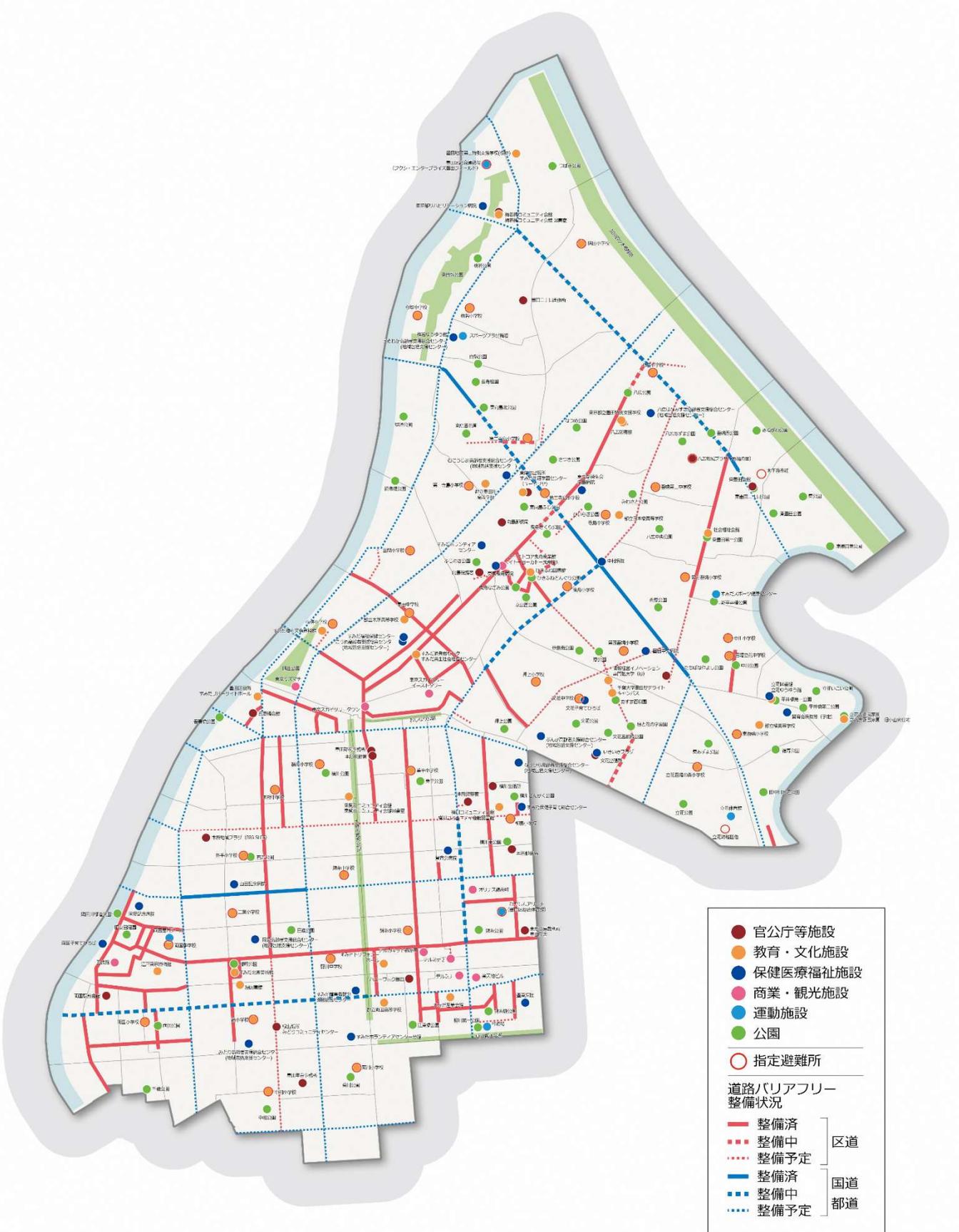
## (1) 鉄道駅

事業者	路線	駅名	1日当たり乗降者数	ワンルート整備	ホームドア	バリアフリートイレ
JR	総武線	両国	56,471人	○	×	○
		錦糸町	157,195人	○	△	○
都営	大江戸線	両国	25,852人	○	○	○
	浅草線	本所吾妻橋	15,227人	○	○	○
		押上	163,121人	○	○	○
	新宿線	菊川	20,121人	○	○	○
メトロ	半蔵門線	錦糸町	79,915人	○	○	○
		押上	137,244人	○	○	○
京成	押上線	押上	164,274人	○	○	○
		京成曳舟	15,647人	○	×	○
		八広	10,956人	○	×	○
東武	東武スカイツリーライン	とうきょうスカイツリー	94,274人	○	×	○
		曳舟	19,726人	○	×	○
		東向島	15,611人	○	×	○
		鐘ヶ淵	10,556人	○	×	○
	亀戸線	曳舟	4,290人	○	×	○
		小村井	9,436人	△	×	○
		東あずま	6,688人	○	×	○

## (2) バス停

項目	令和6年4月時点
バス停総数	287か所
上屋整備	88か所 (30.6%)
ベンチ整備	94か所 (32.7%)
視覚障害者誘導用ブロック整備	283か所 (98.6%)

(3) 道路



## 2 住民参加と意見反映のための取組

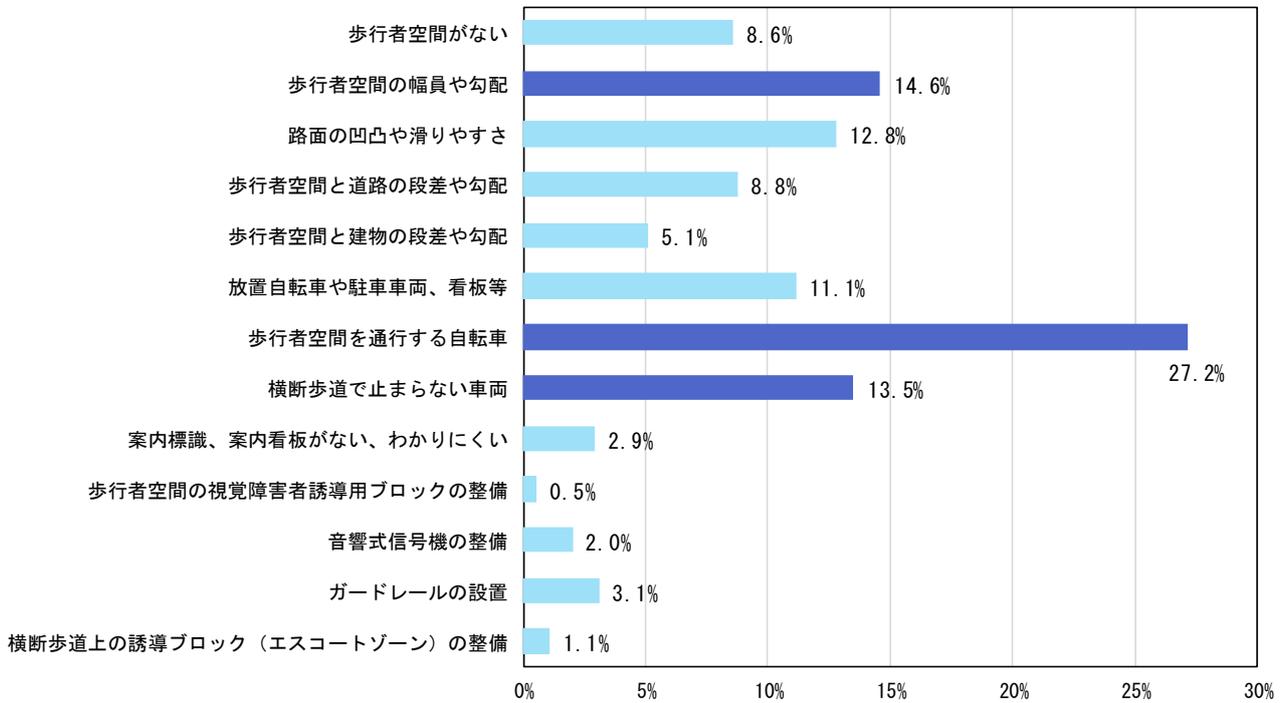
### (1) 実施概要

区民アンケート調査	<p>実施時期：令和6年9月27日～同年10月21日</p> <p>対象者：18歳以上の区民から無作為抽出 (南部・北部、性別、年代が均等になるように抽出)</p> <p>配布数：2,000件(郵送)</p> <p>回答数：566件(郵送又はWEB回答、回収率28.3%)</p>
子ども向けアンケート調査	<p>実施時期：令和6年10月中旬～同年11月上旬</p> <p>対象者：小学校児童又は児童館等利用者(6歳～18歳)</p> <p>配布場所：厚生課所管事業等に関係が深い施設 (梅若小学校、中川児童館、江東橋児童館、興望館)</p> <p>回答数：297件</p>
乳幼児の保護者向けアンケート調査	<p>実施時期：令和6年10月中旬～同年11月上旬</p> <p>対象者：5歳以下の子どもがいる保護者</p> <p>配布場所：厚生課所管事業等に関係が深い施設 (両国子育てひろば、文花子育てひろば、中川児童館、江東橋児童館、興望館、すみだボランティアセンター)</p> <p>回答数：164件</p> <p>※ 別途、区内私立保育園の保護者に対しても調査を実施した(令和7年1月20日～2月28日)。</p>
関係団体等ヒアリング	<p>実施時期：令和6年10月上旬～11月上旬</p> <p>対象団体等：11件</p> <p>(墨田区障害者団体連合会、墨田区老人クラブ連合会、オレンジカフェすみだ(認知症カフェ)利用者、墨田区子ども・子育て会議、墨田区社会福祉協議会、墨田区商店街連合会、墨田区観光協会、NPO法人ことばの道案内、NPO法人ウィーログ、有限会社さいとう工房、株式会社ミライロ)</p>

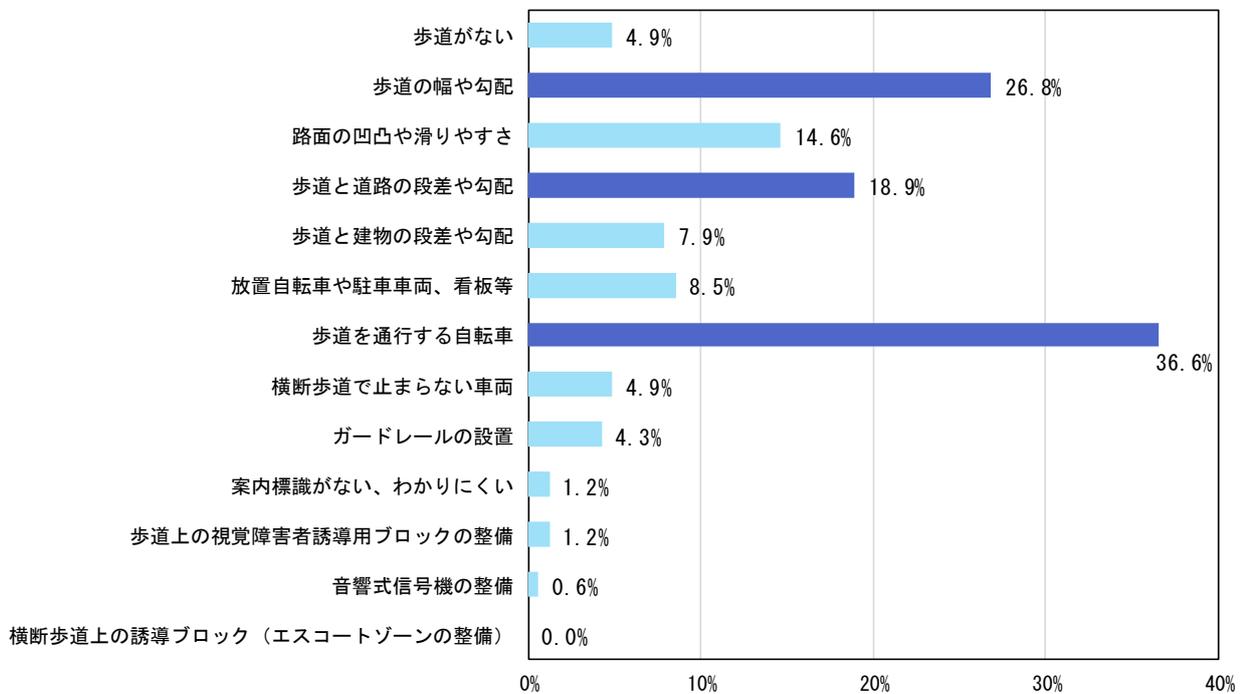
(2) アンケート調査の結果（抜粋）

ア 駅周辺の歩行者空間についての課題

○区民アンケート調査（N=539 複数回答）

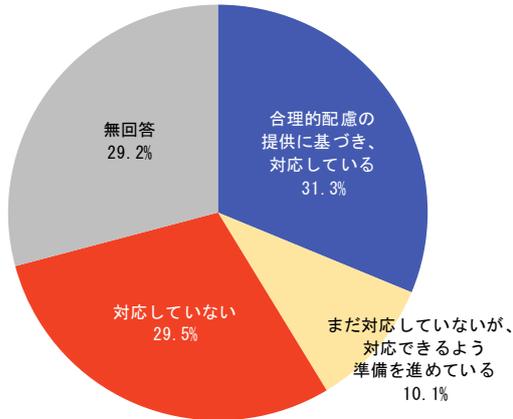


○乳幼児の保護者向けアンケート調査（N=164 複数回答）



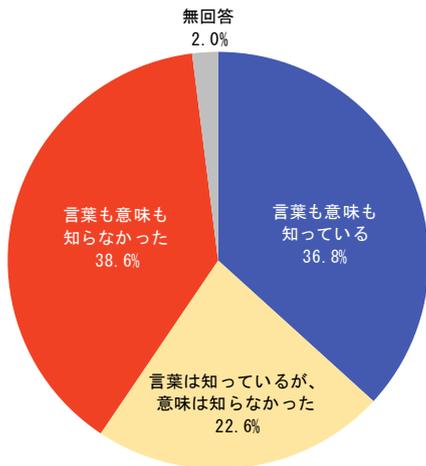
イ 障害者差別解消法における「合理的配慮の提供」の職場等での周知や取組

○区民アンケート調査 (N=566)

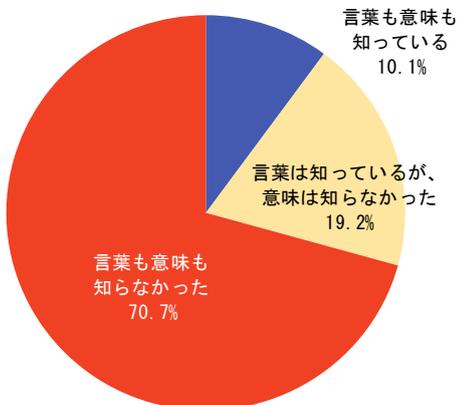


ウ 「心のバリアフリー」の認知度

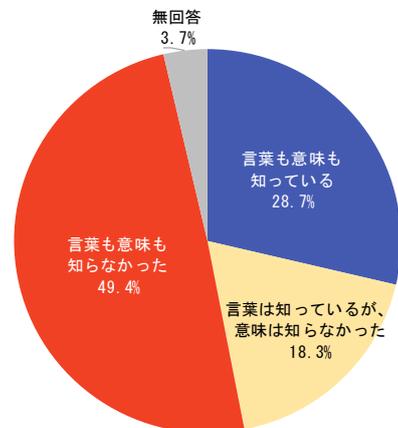
○区民アンケート調査 (N=566)



○子ども向けアンケート調査 (N=297)

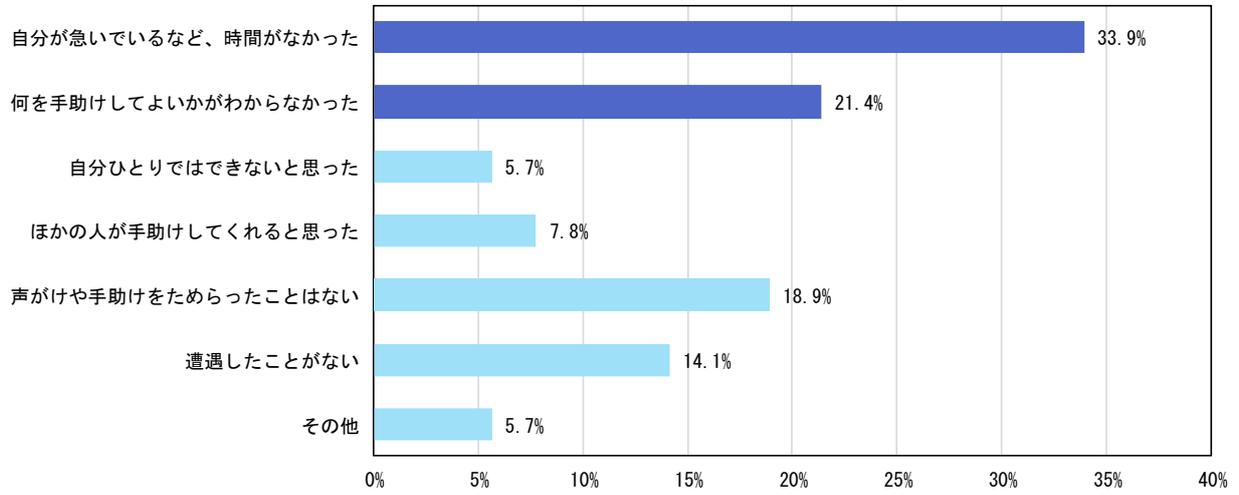


○乳幼児の保護者向けアンケート調査 (N=164)

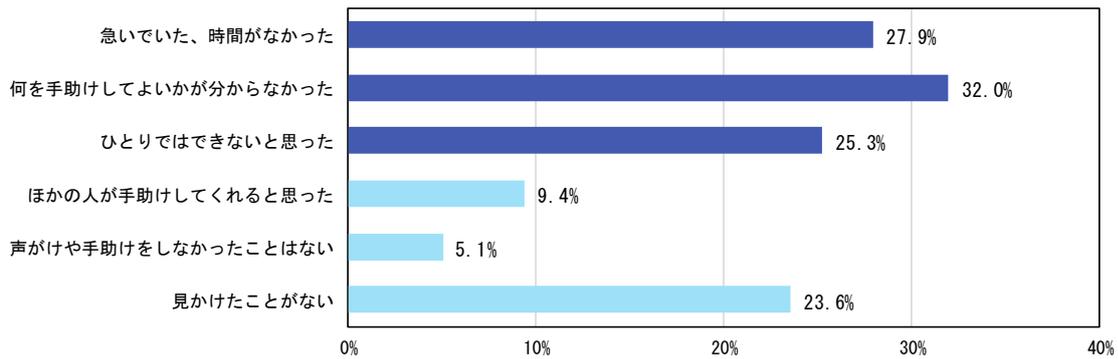


エ 支援を必要としている方に対して手助けをためらった理由

○区民アンケート調査 (N=566 複数回答)

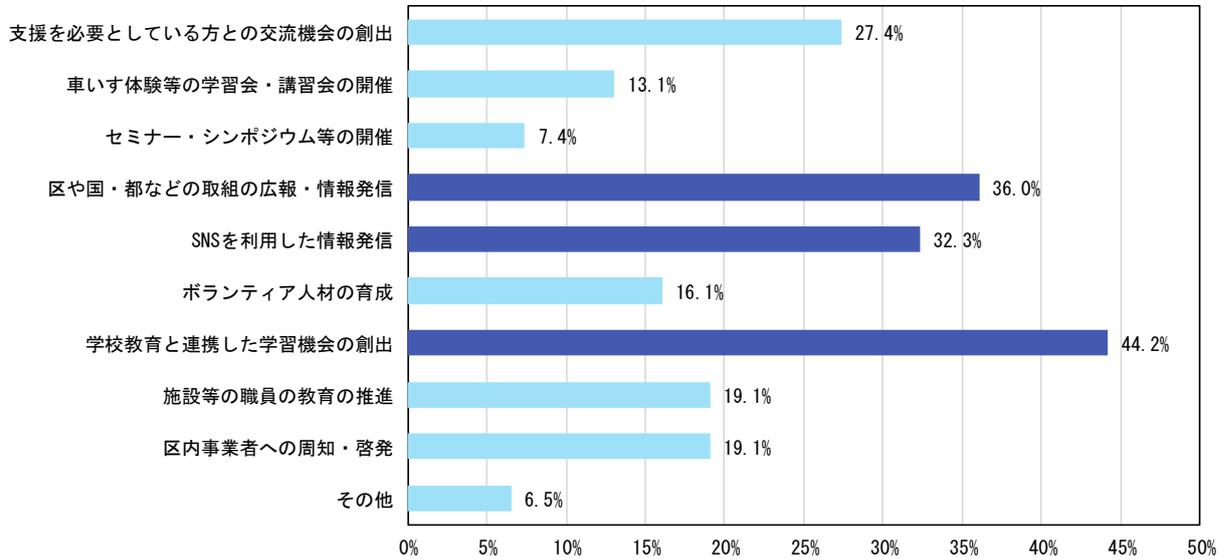


○子ども向けアンケート調査 (N=297 複数回答)

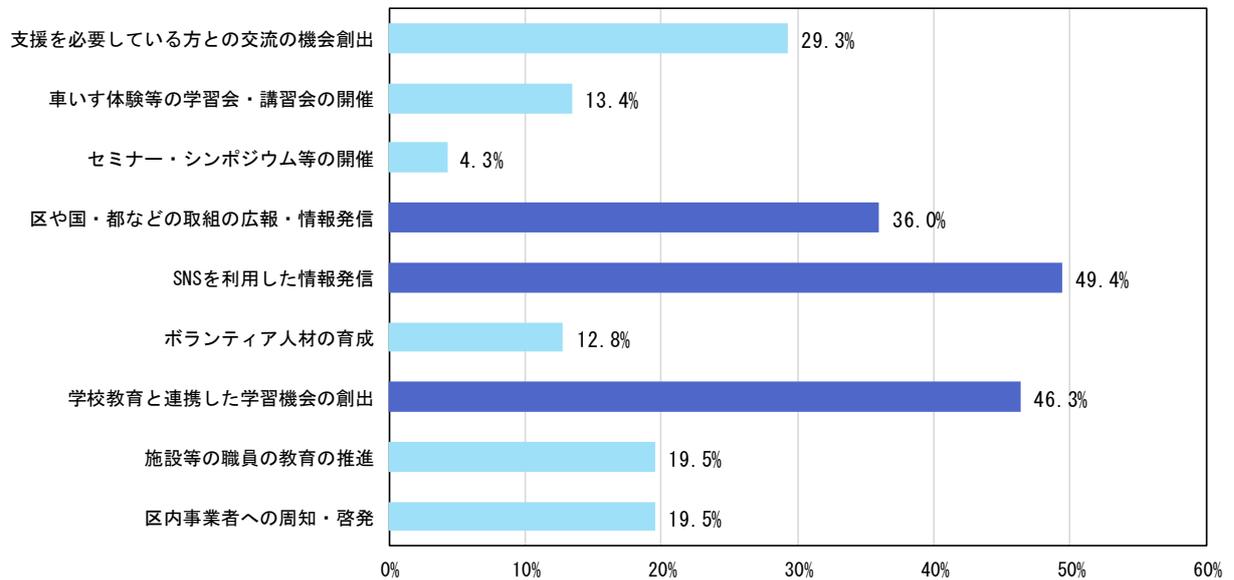


オ 心のバリアフリーを広める・理解を深めるために必要な取組

○区民向けアンケート調査 (N=566 複数回答)

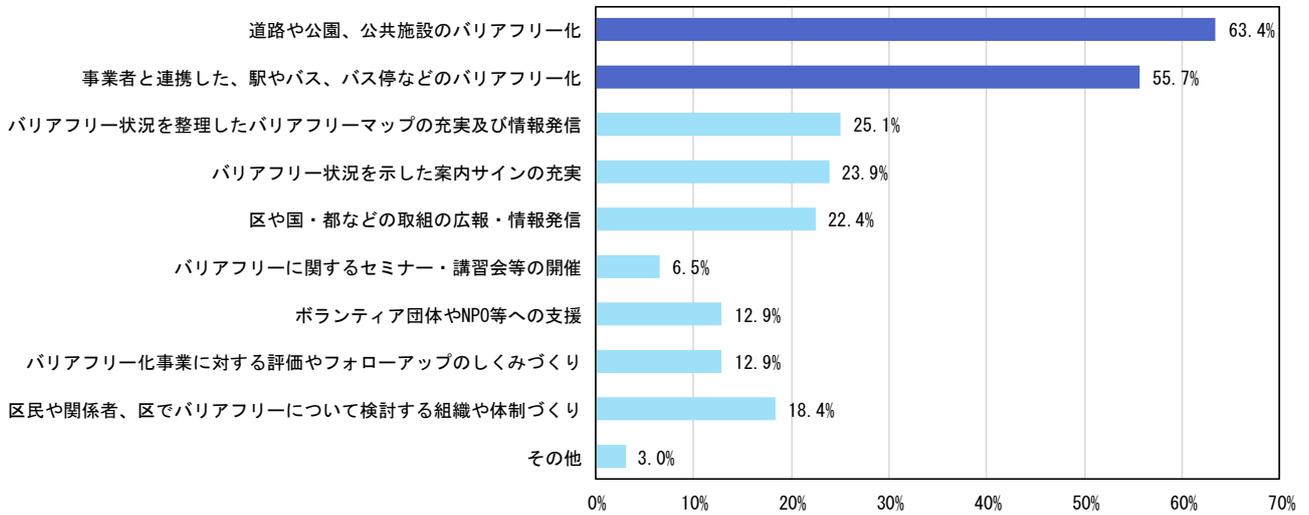


○乳幼児の保護者向けアンケート調査 (N=164 複数回答)

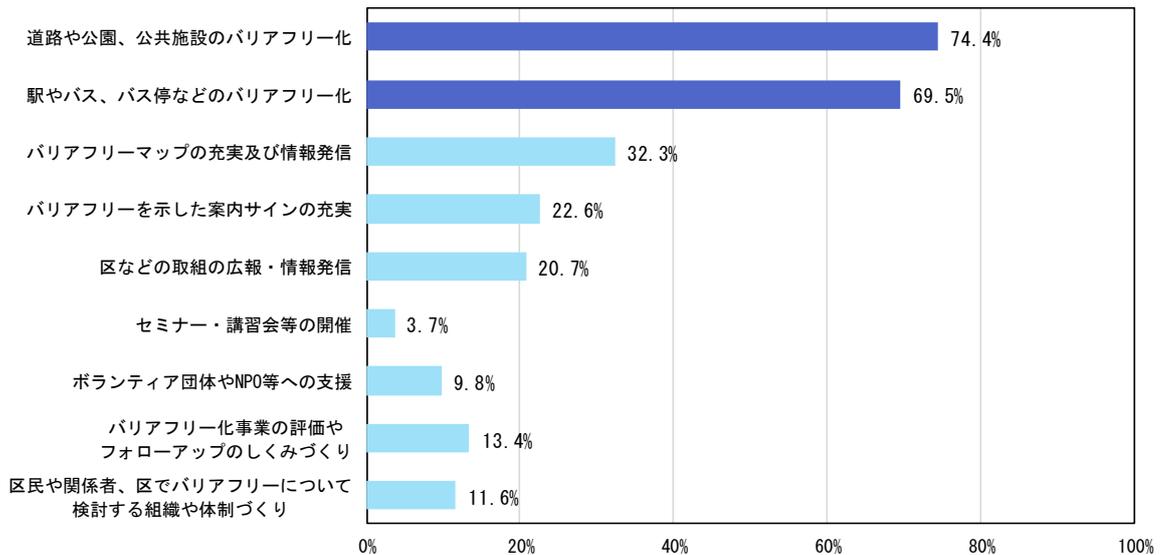


カ バリアフリー化を進めていくうえで区が行うべき役割

○区民向けアンケート調査 (N=566 複数回答)



○乳幼児の保護者向けアンケート調査 (N=164 複数回答)



(3) 関係団体等ヒアリングの結果（抜粋）

公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故や遅延の際、車内放送はあるが文字情報がないため聴覚障害者は困る。</li> <li>・車いす通勤の方をサポートする時間帯は駅員が把握しているが、不定期に駅を利用する方にとっては、支援を受けるまで時間を要する。</li> <li>・ハンディキャブは運転ボランティアが少ないことが課題である。</li> </ul>
道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や視覚障害者にとっては、スピードを出して歩道を走る自転車、傘をさした自転車や歩きスマホの歩行者との接触が怖い。最近は電動キックボードの往来も増えている。</li> <li>・経路の確認や考え事をする時に一休みできるベンチがあると良い。</li> <li>・歩道が整備されていても、水はけ勾配や車の乗り入れのための切り下げがあると、車いすが流されてしまう。</li> <li>・車いすでは、点字ブロック上の移動が大変である。歩道と車道の2cmの段差が怖いという意見がある。</li> <li>・視覚障害者のための音声案内は、点字ブロックが敷設されたルートを中心に作成するが、墨田区は点字ブロックが少なく、ルート作成に苦労する。</li> </ul>
建築物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模な店舗のバリアフリー対応は面積や費用を要するため、難しい。</li> </ul>
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者等は、施設のバリアフリー情報を事前に調べ、ルートを考えてから外出する方が多い。</li> <li>・バリアフリーマップやバリアフリースイールの案内は、外観や入口、内部が分かる写真が掲載されていると、事前に調べることができ、利用しやすい。</li> <li>・レストランやホテルのトイレ等の施設情報があるとより良い。</li> </ul>
普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区が配布している心のバリアフリー啓発冊子は、内容が分かりやすく良い。</li> <li>・店舗のサービス対応に関する研修会があれば参加する方はいるのではないかと。</li> </ul>
障害者の社会参加や心のバリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者は、できないことをあきらめがちになってしまうが、楽しくいきいきと暮らせるように、旅行や仕事などやりたいことを実現するための総合的な取組が必要である。</li> <li>・日本人は声がけをためらってしまうことが多い。障害者からももっと助けを求めて良いと思う。ハード整備も必要だが、ソフト面の普及が必要である。</li> <li>・障害者が外出できる機会が増えると、本人にとっては社会とのつながりやコミュニケーションが増えるとともに、健常者にとっても声がけなど心のバリアフリーの意識醸成につながる。</li> <li>・ハード面の整備には限界がある。障害当事者が気軽に外出できるようにするには、心のバリアフリーの周知が大切である。</li> </ul>
区や他団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字ブロックの整備やバリアフリールートの作成は、道路の管轄、区の境界などに影響されることから、関係機関同士で連携・情報共有をしてほしい。</li> <li>・リフト機能付き電動車いすを商店街や美術館にレンタルして利用者に貸し出すことができれば、障害者等が自分で買い物や美術品を楽しむ支援ができる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光や防災など、連携しながら総合的な取組をしていく必要がある。</li> <li>・災害時の情報は健常者向けになりがち。地域に視覚障害者がいることを知ってもらい、当事者への情報の伝達について考えてもらうことも大切である。</li> <li>・店舗でタブレットやタッチパネル、セルフサービスの導入が増え、視覚障害者や高齢者にとっては利用しづらいと思う。</li> </ul>